

令和2年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



令和3年5月10日
NPO法人北海道遺産協議会

令和2年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計3件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	新ひだか町	静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動	450,000
2	螺湾(らわん)ブキ	足寄町	NPO法人あしよろ観光協会	螺湾ブキ自生地環境整備活動 その2	250,000
3	野付半島と打瀬船	別海町 標津町	野付半島自然環境保全協会	トドワラ遊歩道の花看板修理	200,000

1. 静内二十間道路桜並木への桜の植樹活動

■ 実施主体：新ひだか町

■ 実施団体URL： <http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/>
(新ひだか町HP)

■ 助成額：450,000円

ー活動内容ー

- 二十間道路桜並木は、「日本の道百選」「さくら名所百選」「北海道遺産」に選ばれるなど、他に類を見ない日本屈指、また世界に誇る桜の名所であり、後世に引き継いでいかなければならない「まちの宝」。
- 老木化や異常気象などの強風による倒木・枝折れ、さらには害虫被害も深刻であるため、現在、樹勢回復事業に取り組んでいる。
- 助成金を活用し、エゾヤマザクラ7本を植樹することができた。
- 植樹式は、株式会社伊藤園様主催で開催していただき、伊藤園様、北海道遺産協会、新ひだか町が出席して実施することができた。



遺産の名称：

「静内二十間道路の桜並木」
(新ひだか町)



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872（明治5）年に黒田清隆が進言し、静内町（現・新ひだか町）から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間（約36m）にわたって両側に2,000本をこえるエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。

2. 螺湾ブキ自生地環境整備活動 その2

■ 実施主体：NPO法人あしよろ観光協会

■ 実施団体URL： <https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kanko/>
(北海道足寄町HP)

■ 助成額：250,000円

ー活動内容ー

- 平成28年の台風で甚大な被害を受けた鑑賞圃場を、北海道遺産協議会の支援を受け平成30年度より復旧作業を実施している。
- 復旧作業は、河川より一段高い土地に新しい圃場を設定し、螺湾ブキの苗2,000本と採取した根茎の植え付けを行うとともに、流失した看板を更新した。螺湾ブキは、2m以上の草丈になるのに、苗から3年以上の月日が必要なことから、令和元年に除草や追肥を行い、北海道民が誇る北海道遺産螺湾ブキの復旧に努めている。
- 復旧作業3年目となる令和2年度には、地元の足寄高校の「インターンシップ」の一環で生徒さんにも除草や施肥を体験してもらい、北海道遺産螺湾ブキの保護と育成について学んで戴いた。
- 次年度以降の一般開放を見据え、来場者の皆様に安全安心に北海道遺産の螺湾ブキをご覧頂くため、ほ場内を流れる小川を渡る小道を整備した。令和3年度も一般開放に向け準備を進めていく。



遺産の名称：

「螺湾（らわん）ブキ」
(足寄町)



足寄町の螺湾川に沿って自生する螺湾ブキは高さ2～3mに達する巨大なフキ。かつては高さ4mに及び、その下を馬に乗って通ることができたというが、なぜ大きくなるのかはいまだに謎が多い。また、自生ブキの他にも、農業者が農産物として栽培ブキの生産を行っている。その味は繊細で、ミネラルが豊富で繊維質にも富む。

3. トドワラ遊歩道の花看板修理

- 実施主体：野付半島自然環境保全協会
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 野付半島ネイチャーセンターからトドワラへ続く遊歩道は、原生花園となっており、野付観光のメインとなる場所。特に夏の観光シーズンには多くの方が訪れ、色とりどりに咲く花々を楽しんでいる。その遊歩道沿いに、数種類の花看板が設置されているが、色あせや杭の腐食など、劣化や破損が生じていた。そこで看板を修理し、コロナウイルスの感染が落ち着き、これからも野付半島を訪れる皆さんに、気持ちよく楽しんでもいただけるよう整備した。
【開始前】 看板の 色あせ・劣化、土台や杭の 腐敗・損傷が生じていた。
【活動・完成】 新たに印刷した看板を土台に取り付ける→土台の切断、焼き加工。
 腐食・破損した杭の付け替え、新しい看板の設置
- 読みやすく、きれいな看板に更新することができた。令和3年はたくさんのお客さんに野付半島のお花を楽しんでもらいたい。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬船」
(別海町、標津町)



野付半島は全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。